

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 男女共同参画の必要性（40分） ～男性にも男女共同参画の重要性を認識してもらうために～</p> <p>昨年秋、2018年度文部科学省の組織改編に伴い、現行の生涯学習政策局男女共同参画学習課が、新たに設置される総合教育政策局共生社会学習推進課へと統合されることが公表されました。</p> <p>男女共同参画社会の実現に教育・学習の果たす役割が大きいことは、第4次男女共同参画基本計画でも指摘されています。特に世界経済フォーラムのジェンダー・ギャップ指数が144か国中114位と、年々低下している我が国においては、中心となり主導する男女共同参画学習課の存続と拡充が不可欠です。</p> <p>昨年11月、衆議院議員会館での意見交換会が行われ、女性団体や市民団体から、男女平等の社会が実現するまで課の名称存続を求める要望書が出されました。文部科学省は意見に配慮し、名称をなくす案を撤回し、新設する課の名称を「男女共同参画・共生社会学習推進課」にする方針を固めたと12月に新聞報道がありました。市民ネットワーク鶴ヶ島からも文部科学省に課の存続を要望する意見書を提出しました。</p> <p>内閣府の「男性にとっての男女共同参画コラム」の中の「男性たちに男女共同参画の重要性を認識してもらうために」の冒頭で、この課題は、「男性の問題」でもあり、もっといえば、「日本社会の未来」をめぐる課題であると指摘しています。つるがしま男女共同参画推進プランで挙げている課題とも同様であると思います。</p> <p>シングルマザーと貧困の問題、そして、性別に起因する暴力の防止と支援に視点を置いて、市の男女共同参画施策を伺います。</p> <p>(1) 文部科学省の組織改編案の影響について (2) 男女共同参画の必要性について ア 男女共同参画とは何か。 イ 男性にとっての男女共同参画とは。 (3) 女性の貧困と子どもの貧困 ア 児童扶養手当受給世帯数から見えてくる課題は。 イ 安心して働ける雇用環境整備のためには。 (4) 性別に起因する暴力の防止と支援 ア 性被害について、安心して相談し、支援を受けられる社会にしていくためには。 イ 配偶者暴力相談支援センターの設置は。</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>2 子ども食堂のこれから（20分）</p> <p>平成28年第2回定例会で子ども食堂の取組について質問しました。市は、子どもの貧困率について独自の調査は実施していないので把握はしていないが、保護世帯率から推計し、国の相対的貧困率約15.5%と同水準と答弁されています。</p> <p>子ども食堂については、NPO 法人カローレからの市民提案による協働事業として、平成28年7月から、東市民センターとに西市民センターで月4回実施する計画とのことでした。</p> <p>私も複数回参加させていただきました。</p> <p>全国各地で始まった、子どもたちに食事と居場所を提供する「子ども食堂」の取組は、平成27年頃から新聞にもとりあげられ、子ども食堂ネットワークによれば、全国500か所を越えているとの事です。そのほとんどは地域の方が集まりボランティアや寄附で成り立っています。</p> <p>その中で、市民協働事業として始まった鶴ヶ島市の子ども食堂じゃがいもは、全国的にも先駆的な取組だと言えます。</p> <p>自治体が関与する子ども食堂は、泉佐野市の「うちカフェ」や堺市の「キッズカフェ」、北九州市、明石市などのように自治体が開設したり、NPO 法人へ委託したりと、様々な形式で広がっています。</p> <p>本市の市民協働事業は、公的支援も含めて政策提言していくための検証の2年間だということでした。この取組による成果と課題、そして、これからの方向性について伺います。</p> <p>(1) 子ども食堂から見た鶴ヶ島の現状は。</p> <p>(2) 地域、学校との連携は。</p> <p>(3) 2年間の取組から見える課題は。</p> <p>(4) これからの公的支援のあり方は。</p>	<p>市長 教育委員会教育 長</p>